

Y . H さん（原告番号 6）

1 私は Y . H と申します。生まれてすぐ実の親に捨てられ、養父母によって育てられました。肉親の記憶は全くありません。私の運命はなんて残酷なのでしょう！

2 私の養父は普通の労働者でした。比較的貧しい家でしたが、私は小さいころからがんばって勉強して、様々な困難を克服して、医者になるという夢を実現しました。帰国直前は吉林市伝染病院で漢方西洋医学の結合主治医として、また肝炎科副主任として勤務しておりました。

3 自分が日本人であることを知ったとき、すぐに帰国することを決意しました。職場は離れなくてはなりません。しかし、私がもっとも愛するものは私の家族であり、私の帰る場所は、自分の祖国しかありません。

4 中国では「落葉帰根」(落ち葉は根に帰る)という諺があります。旅人はずっと家を離れても、最終的には故郷には帰ります。故郷に帰るといふ私の夢は9年の月日を経て、ようやく実現しました。しかし、親は見つかりませんでした。親孝行することができないことを、私は一生悔やむでしょう。

5 どうして国は、国交が回復してすぐに、私たちを帰国させてくれなかったのでしょうか？もう少し早く帰ることができたなら、家族を見つけることができたのかも知れません。

6 裁判で、国は、私が政府の制度に満足していたような主張をしていますが、とんでもありません。一体何通の手紙を出したでしょう。早く帰国させてください。手紙に返事を出してくださいとお願いしました。返事はありませんでした。国は、何年間も、手紙一つ書いてくれなかったのです。

7 帰国後、長年積み重ねてきた漢方西洋結合臨床の経験を活かしたい

と思い、主人と一緒に針灸学校に入りました。学費を払えず、310万円の借金をし、さらに言葉の障害やさまざまな困難を乗り越え、ようやく自分の針灸治療院を設立しました。現在多くの患者の苦しみを解消していると思います。これも祖国に対しての恩返しだと思います。

8 私も主人も年をとっており、長年の苦勞のせいで、腰椎骨質増殖病を患っており、よく腰が痛く、また体力の衰退、視力の低下により、もうこれ以上仕事を続けることができません。

9 私は36年間がんばって働いてきました。今年から年金を受給するようになるのですが、毎月たったの2.5万円の年金しか受け取れません。保障がなければ、私たちの老後は想像がつくでしょう？政府は私たち孤児には何の手当もとってくれません。私たちの苦しみは、すべて国が作ったのです。

10 二つのお願いを申し上げます。第一に孤児たちは高齢で、困難に直面しています。また老後の生活保障はありません。これは大きな悩みです。政府にはこの点について適切な措置をとっていただきたいと思います。第二に孤児も国民の一員です。孤児を荷物や負担と見なさないでください。他の国民と同じ待遇を受けさせていただきたいです。